

あま市民病院だより

★不定期連載 消化器コラム★

第6回 虚血性大腸炎、非閉塞性腸管虚血症と上腸間膜動脈閉塞症

突然の腹痛から始まって、(いわゆるしぶり腹ですね)下痢を繰り返しているうちにトイレで真っ赤な血便をきたすことがあります。症状と経過からは、虚血性腸炎という病気が疑われます。もちろん、大腸癌・感染症や炎症性腸疾患などの病気も鑑別しなければならないので結論は急いではいけません。

このように、血便を認めたときは、あまり我慢なさらずに病院にお越しください。一般的に暗赤色の血便は、胃潰瘍などの上部消化管出血が疑われ、採血や腹部CTなどの検査を行った後に上部消化管内視鏡検査を受けることをお勧めします。今回のお話しに出てくるように、真っ赤な下血のときには下部消化管出血といって肛門や結腸直腸などの病気を疑い大腸内視鏡検査を受けることをお勧めします。

さて、虚血性腸炎ですが①50歳以上の高齢者(やや女性に多いようです)②高血圧③高脂血症④動脈硬化⑤心房細動⑥糖尿病などを基礎疾患に持つことが知られております。高血圧や動脈硬化による腸間膜動脈の狭窄や、便秘や下痢により腸内圧が亢進することで発症することもあるそうです。腹部CTで限局性の腸管壁肥厚を認め、大腸内視鏡検査では特徴的な粘膜発赤・腫脹・びらんを認めます。ほとんどは一過性のもので、安静と点滴で治癒しますが、狭窄型や壊死型などの重症な症例は、ときに外科治療が必要になる場合もあります。さらに、急性腸間膜動脈閉塞症や非閉塞性腸管虚血症(NOMI)などの病気は、上腸間膜動脈という比較的太い血管の閉塞や虚血が原因で発症します。結果として広い範囲の小腸に血液が届かなくなり、腸管浮腫や壊死となり非常に重篤な状態になります。腸管に流入する血液の虚血によって生じる病気は、高血圧・動脈硬化・心房細動などが原因となり、肥満・高脂血症・高尿酸血症などの基礎疾患のある方も、これらの疾患のハイリスクとなります。頻度的には極めてまれではあるものの、一部の虚血性腸炎や上腸間膜動脈閉塞症や非閉塞性腸管虚血症は非常に重症なため、臨床経過から虚血性腸炎が疑われた場合でもきちんと検査をして診断をしっかりとすることをお勧めします。

あま市民病院では、緊急内視鏡の必要とされる下痢下血などの患者様にも可能な範囲で対応しております。地域の開業医の先生と連携し診療にあたることができれば幸いです。

あま市民病院 消化器内視鏡センター長 岩田 正己

◆◆◆あま市民病院Facebookのご紹介◆◆◆

あま市民病院の活動やお知らせなどをFacebookでも発信しています。



<https://www.facebook.com/amahosp/>

公益社団法人
MED 地域医療振興協会

あま市民病院

～市民と連携機関に信頼され、健康と安心を提供する病院～

〒490-1111 あま市甚目寺畦田1番地
問合時間：午前8時30分～午後5時
(土・日曜、祝日を除く)

☎ 444-0050 FAX 444-0064

<https://www.amahosp.jp/>

